

アジャブ・テラー・カーヌーナ・デーカー

ヴィジュ・クルカルニによる歌唱

繰り返し

おお、神よ、私はそれを目の当たりにしてきた。

あなたの法則は何と神秘的なことか！

あなたのやり方は何と驚嘆すべきことか！

私が心を置いたどんな場所にも、

愛を与えたどんな人にも、

何度も何度も、私はあなたをそこに見つけてきた。

第1節

人があなたを見つけるのは寺院の中ではない。

人があなたに出会うのはモスクの中ではない。

なぜならあなたは、おお、神よ、

真に誠実な探究者の心の中でのみ、

切望で脈打つ心の中でのみ、知られるであろうから。

第2節

そしてひとたび、この心をあなたに委ね、

心そのものをあなたに完全に差し出す時、

あなたはあなたの愛の完全な輝きを見せる。

第3節

おお、神よ、アーシク、すなわちあなたの純粋な本質を愛するようになった者は
今や、あなたのイメージに感化され、
あなたが彼らに与えた色に染まる。

第4節

個人性をほんのわずかでも
心に持ち続ける者は
道を見失う。
エゴと分離の感覚を
手放す者のみが
あなたに出会い
あなたのものとなる。

第5節

あなたを信ずる者は、おお、神よ、
あなたのダルシャンを受け取り大切にする。
ちょうど物乞いが両手を茶わんのようにして
二つとない、極めて貴重な真珠を受けるように。



イーシャ・サーデサイによる紹介

何世紀にもわたって、インドでは偉大な詩人たちが彼らの神への愛をカウワーリーの形で表現してきました。カウワーリーとは、スーフィーの伝統を起源に持つ献身の歌のことです。それら

は、ヒンディー語、ウルドゥ語、アラビア語、パンジャブ語、ペルシャ語などで——あるいは、それらの言語が入り混じって——歌われました。そしてそれらは紛れもなく、今まで存在してきた最も魅惑的で陶酔させる愛の表現の幾つかです。

カウワーリーは、心を打つと同時に、喜びにあふれています。その音の響きは何とも優しく、憂いを帯びた切なる思いが込められ、心の琴線に触れるような性質があります。同時に、その音楽は、広がり、自由、終わりのない展開の感覚を伝えます。カウワーリーには、完全な放棄があります。

カウワーリーが伝統的に演奏される集会は、メヘフィル・エー・サマと呼ばれます。メヘフィルの意味は「集会」で、サマは人々が特に宗教的な音楽や歌を歌うために集まるスーフィーの修行を意味します。

そのようなカウワーリーの演奏会に参加した人から聞いたところ、実に独特なものだそうです。歌い手の声はその場の空気に渦巻いて、ドラムのビートは人々の心臓の鼓動と同調し、愛と献身のエネルギーが、まさに部屋中に大きくうねります。しばしば人々は踊ります。神の体験は直接的で明白なのです。

グルマーイは、カウワーリーを歌ったり、聞いたりするのが大好きです。なぜなら、それが神への、その人の最愛の者への、深い、深い、深い愛を伝えるからです。このカウワーリー、「アジャブ・テラー・カーヌーナ・デーカー」は、グルマーイに選ばれて、彼女の音楽のライブラリーから来たものです。

このカウワーリーの作者の名前は不明です。けれども、彼らが私たちに与えた言葉の中に、彼らが大昔に書いたその歌の中に、私たちは彼らとの強いつながりを感じ、彼らの神への愛を共有することができます。

このカウワーリーは、元々の言語——ヒンディー語とウルドゥ語の混じり合ったもの——が大変美しいので、グルマールは、誰もがこの歌が歌われるのを聴きたいだろうと考えました。グルマールの要請に応じて、SYDA ファウンデーションのスタッフの一人であるヴィジュ・クルカルニ（または、「ヴィジュ・タイ」として知られる）が、このカウワーリーの新しいメロディーをパットデーブ・ラーガで作曲しました。

グルマールはヴィジュ・タイに、どうしてこの曲のラーガをパットデーブにしようと思いついたのか、尋ねました。ヴィジュ・タイは、この要請を受けた時に、目を閉じて、このカウワーリーにどのラーガで歌ってほしいか教えてくれるように願い、祈ったのだと言いました。

それから、ヴィジュ・タイは歌い始め、歌って、歌いました。彼女は歌っている時、それが何のラーガであるのか分かりました。パットデーブです。これは、愛と切望——最愛の者と離れていることから来る切望、そして、この分離に橋を架けるという熱烈な願い——を呼び起こすラーガです。ヴィジュ・タイは、これは彼女が小さな子どもの頃から好きだったラーガで、このラーガの歌を夢中になって聞いた懐かしい思い出がある、と話しました。

「このラーガの独特なメロディーは、私にはとても大切なのです」と、ヴィジュ・タイは言います。「それは私の心を魅了します。それを聞く時や歌う時、いつでも私を幸せにしてくれます」

